



(写真1) 山北町お試し住宅「ホタルの家」(神奈川県)

旧家を改修して移住を促進する 「移住お試し住宅」が増加中

今年是新築、リフォーム共に伸び悩んだ年となり、年度後半の回復に期待したいところであるが、ちょっと視点を変えてみると、地方創生の一環である移住対策のためのインフラの整備が、地方自治体を中心に活発化した年となり、地域性豊かな旧家の改修のモデルが整備されることで、リフォーム事業においても中長期的な発展に向けた基盤作りが進みつつある。

写真は、今年、全国の市町村で整備された「移住お試し住宅」の数々である。これらは過疎化の進む市町村で移住を促進するために、一日数千円ほどの料金で移住を検討している人向けの宿泊施設として設けられた住宅である。

建物の年代は様々であるが、築50年ほどの住宅や古民家、町屋などを改修して住めるようにした住宅が多く見られる。以下に今年スタートした移住促進住宅を紹介する。テーマ別に見ると、①利便性の良い都市部や都市近郊で自然の恵み豊かな住宅や、町屋・古民家の味わいを楽しむというもの、②農山漁村の振興を目的とした移住促進策としての体験型住宅、③広い土地を活かした移住促進住宅作りやゲストハウス作りなどが

が見られる。

古民家や町家を再生

写真1は、神奈川県山北町のお試し住宅「ホタルの家」。築200年の古民家を改修したもの。木造2階建、152㎡、7DK(広い!)。今年5月から来年3月までの2週間から14週間までの滞在者を募集したところ、11月上旬で1月5日までの滞在予約で埋まっている状況。都心から約90分で田舎暮らしができるのが魅力で、利用料は2週間で2万円(光熱水費込)。これまで被災者が入居していた空き家バンクに登録されていた空き家を改修。120万円の予算をかけて、下水道・電気工事、トイレ交換、建具の調整を行い、住宅に合った、いろいろ型のテーブルを設置した。

写真2・3は、兵庫県朝来市内で今年2月に建てられた「あさご暮らし体験住宅」。田舎暮らし体験の生活拠点となる住宅で、あさご暮らし応援課がサポート。竹田住宅は床面積118㎡、竹田城跡の近くにある明治8年の町屋。利用は1箇月単位で月額3万円。川尻住宅は市の最南